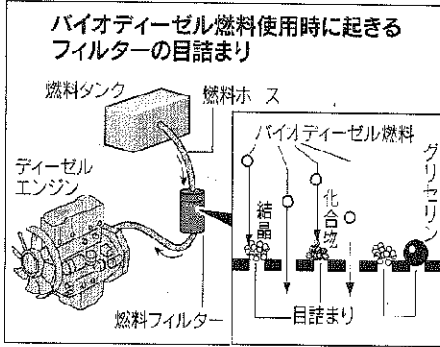


# バイオ燃料 トラブル続出

## 運送業者 エコ落とし穴

使用済み食用油から精製でき、環境対策などで普及が進むバイオディーゼル燃料を使う車両で、エンストなどの不具合が相次いでいる。燃料の不純物がフィルターなどに詰まるのが原因。少量を軽油に混ぜれば問題ないが、経費削減などのため、一〇〇%の濃度で使うと起きやすい。「深刻な事故につながりかねない」とみた国土交通省は、フィルターの定期点検などを徹底するよう運送業界に呼び掛けている。



「あれ、動かない」。兵庫県姫路市の運送業者の運転手はある日、集荷作業中にトラックのキーを何度回しても、エンジンがかからなくなったことに気付いた。バイオディーゼル燃料に含まれる不純物が燃料フィルターが詰まり、燃料が供給されなくなったのが原因だ。

### 高濃度でエンスト

国交省 注意促す



同社は二〇〇六年に温暖化防止策として一〇〇%のバイオディーゼル燃料を導入、トラックなどを三台で使っている。「交量の多い道路でエンジンが止まっていたらと思うとぞっとする」と同社担当者。不具合を防ぐためにフィルターの交換頻度を軽油の約四倍にしているという。

バイオディーゼル燃料の使用でできた固まり(資源エネルギー庁資料より)

▼バイオディーゼル燃料 菜種油など植物性油脂が原料で、飲食店などから出る廃食用油に薬品を入れて精製する。軽油の代替燃料として、自治体へ定期バス向けに製造したり、ガソリンスタンドが運送業者向けに製造する。

販売しつづけている。約十年前から普及し始め、二〇〇七年度の国内精製量は約一千万リットルで前年度の倍に。石油など化石燃料に比べて環境への負荷が少なく、温暖化防止に役立つとされる。

〇三年から一〇〇%のバイオディーゼル燃料を使う岡山県玉野市でも、ごみ収集車のエンジンが作業中に突然止まるトラブルが発生。市の担当者は一環境に良いと思って導入したのにこんな落とし穴があるとは」とぼやく。

資源エネルギー庁は、バイオディーゼル燃料を濃度五%以下で軽油に混ぜれば問題ないとしているが、実際は一〇〇%のまま使うケースが大半。法律などで一〇〇%での使用を禁止していないうえ、同燃料には一リットルあたり約三十二円の軽油引取り税もかからず、コストを抑えられるからだ。大阪市同燃料販売業者は「利用者にメンテナンス

を徹底してもらうしかない」と話す。事態を重く見た国交省は十日、フィルターの定期点検などの対処法をまとめたガイドラインを全国のトラック協会などに配った。資源エネルギー庁も一月下旬、濃度五%以下の使用を勧めるパンフレットを全国の市町村に配布。二十五日からはバイオディーゼル燃料の

製造元に、国への登録と定期的な品質確認を義務づける制度も始める。滋賀県立大の山根浩二教授(内燃機関工学)は「バイオディーゼル燃料の普及を適切に進めるには、軽油に混ぜた場合に軽油引取税を全額免除したり、品質検査の費用を行政が補助したりする制度が必要だ」と指摘している。